

2021.12.15

御前崎市バリアフリー化器材配備事業お披露目イベント視察に係る出張報告書

海洋センター・クラブ課 片山 樹弥

◆出張期間

2021年12月10日（金）～12月11日（土）

◆出張場所

- ・御前崎市 B&G 海洋センター
- ・すいすいパークぷるる（御前崎市民プール）
- ・株式会社 ON'S COMPANY

◆出張者

- ・事業部 事業課 鈴木 昭正
- ・事業部 海洋センター・クラブ課 片山 樹弥
- ・企画部 企画課 大瀧 裕史

◆面会者

- ・御前崎市 教育委員会 教育部長 長尾 紹司 氏
- ・ " 教育委員会 社会教育課 課長 小野田 明人 氏
- ・ " 教育委員会 社会教育課 主事 高田 氏
- ・公益財団法人御前崎市振興公社 事務局長 赤堀 史明 氏
- ・ " 主幹 土屋 あづさ 氏
- ・ " 主任 増田 弥紀 氏
- ・ " 主任 藤原 洗介 氏
- ・ " 主任 罇 拓也 氏
- ・ " 主査 高畑 理恵 氏
- ・B&G 全国指導者会 副会長 曾根 由多 氏
- ・株式会社 ON' S COMPANY 代表取締役 松井 重樹 氏
- ・ " 代表理事 石原 智央 氏

◆目的

- ・御前崎市バリアフリー化器材配備事業お披露目イベント視察
- ・障がい者対象イベント視察
- ・海洋センター視察

◆成果

- ・海洋センターのバリアフリー化と器材配備事業の内容を住民に周知することができた
- ・海洋センターの現状の問題点を確認することができた。

◆マスコミ

①(株)御前崎ケーブルテレビ 放送課 吉田 怜恩 氏

◆所感等

【鈴木】

○お披露目イベント

- ・バリアフリー化器材配備事業のお披露目イベントとして、革工作教室と体育館レク教室が開催され、放課後デイサービス2施設を中心に、障害児32名、スタッフ総勢約50名が参加した。
- ・御前崎市は目立つセンターではない印象を受けたが、今回の視察で指定管理者の取り組み内容がよく、地域に根差したセンターであるとの印象が変わった。
- ・障害者対象事業の発端を聞くとともにつながりがあったわけではなく、障害者にも海洋センターを使ってもらうため、初級障がい者スポーツ資格を取得し、体を動かすレク教室などを手探りで始めたのがきっかけとのことであった。積極的な障害者事業を実施するセンターとして、指導者の研修会で事例発表をしてもらいたいセンターであると感じた。
- ・障害者事業は、「やったことがないから、できない」、「障害者への対応がわからない」、「万が一事故が起きた時の責任」などにより、実施に後ろ向きなセンターが多い中で、体育館事業だけでなく、障害者水泳教室も毎週実施しており、御前崎のセンターには非常に積極的な指導者がいると感じた。
- ・指定管理者は御前崎市振興公社であり、団体の長は現御前崎市長が就任しているため、半民半官の第三セクターとして、市の社会体育施設（海洋センターや御前崎市民温水プールなど）6施設を指定管理し、行政と一体となって、スポーツ・文化の事業実施をしている。
- ・海洋センターは、財団との接点がありませんため、財団事業の情報に疎いように感じた。そのため、修繕助成の残使用可能枠の説明、養成研修への派遣予算確保依頼を行った。

○海洋センター

- ・四類の海洋センターで、一昨年度老朽化のため、プールの上屋を撤去している。センターから100mほど歩いた公園から崖下に海が見え、冬は特に強風が吹く環境にあるが、夏季には近くの小学校の児童が放課後海洋センタープールを利用し、子供たちの遊び場となっている。
- ・海洋センター評価は、特AとAを交互に取るような状況となっており、今回、修繕助成制度の過去活用状況を伝えるとともに、今後計画の話がある体育館の冷暖房設備の導入のため、特A評価が継続できるようアドバイスをした。
- ・毎週月曜日に幼児や障害者、一般を対象としたトランポリン教室を開催し、4クラス約100人の教室生がおり、指定管理者のスタッフと講師が指導、体育館利用で特徴的な事業だと感じた。この事業も職員がトランポリン教室を実施するため、指導員養成資格を取得し、事業を開始したと聞き、常に新しい事業にチャレンジしていく団体の方針が浸透しているようであった。

○ぷるる

- ・指定管理者が合わせて管理している年間20万人利用者を誇る御前崎市プール施設も視察した。
- ・温水プールや夏季屋外プール、スタジオ、浴場、トレーニングルームなど、一通りの施設が揃っており、利用者のほとんどが年間パスポートを保有、地域の方の利用が定着した施設であると感じた。
- ・視察時は、ボイラー交換のため、温水プールの部分は営業を休止していたが、それでも一日あたり500人ほどの利用者が訪れているとのこと。

・訪れていた利用者さんが施設スタッフと親しげに話しており、アットホームな雰囲気が、利用者から好評、右肩あがりの利用者人数につながっているのではないかと、視察して感じて。

【片山】

今回、事業課で行っている「海洋センターのバリアフリー化と器材配備事業」のお披露目イベントに、他課の事業把握と大空町の公共施設のバリアフリー化に役立てるため、ご同行させていただいた。お披露目イベントは、御前崎市内の放課後デイサービスから障がい者および介助者を含めて32名の方々にご参加していただいた。お披露目イベントでは、くす玉を用意していただくなど盛大に開催していただくことができた。

お披露目イベント終了後は、海洋センター内で「障がい者革工作体験教室」と「障がい者体育館でレクリエーション」が開催された。「障がい者革工作体験教室」では、キッズレザープログラムというものを活用し、皮革産業連合会から無償で革のハギレを取り寄せて、オリジナルのストラップ作成を行った。キッズレザープログラムを通じて、将来障害を抱えた子どもたちが革業界に進む一助になればと感じた。「障がい者体育館でレクリエーション」は、みんなで何かをするというよりも、一人ひとり好きな遊びを行っている様子であった。放課後デイサービスの職員に聞くところ、体育館で遊ぶ機会があまりないため、体育館に来るだけでも子どもたちは楽しんでくれるとのことであった。障がい者対象のレクリエーションと聞くと難しいイメージがあったが、今回のイベントを見てどこのセンターでも実施可能だと感じた。大空町に戻った際には、障がい者対象のイベントを開催し、誰もが楽しめる共生社会を目指したい。

今回のバリアフリー化により、車いすでトイレに入りやすくなった様子を生で見ても、施設を心地よく使える住民が増えたことを改めて実感した。

【大瀧】

今回、海洋センターのバリアフリー化と器材配備事業のお披露目イベントに参加させていただいた。株式会社リカバリーとタップ株式会社ひまわり浜岡校から32名の方々にご参加していただき、参加した方々やスタッフにインタビューをすると「車いすで行くときにトイレがしやすくなった」「バリアフリーは施設でも課題とされており、金銭面的にも厳しいところである。公共施設をバリアフリー化して頂くことで活動の幅も広がるし助かる。」といった回答を頂いた。

その後は、海洋センター内で障害者革工作体験教室と障害者体育館でレクリエーションをローテーションで行った。皮革産業連合会から無償で頂いている革のハギレを使用し、試行錯誤し要所ごとに手伝ってもらいながらだが、なるべく障害者の方が作業するようにしていた。障害者体育館レクリエーションは月に1~2度行っているようで、今後バリアフリー化されることで障害者の方々の利用が増えるのではないかと障害者施設スタッフの方がおっしゃっていた。

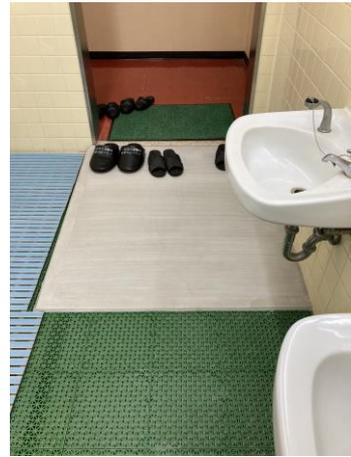
御前崎海洋センターの委託先である、公益財団法人御前崎市振興公社の方々やB&G全国指導者会副会長の曾根氏がとても親切な方々であった。曾根氏も自分の体験談を交えて自治体派遣について教えて頂いたのもとてもためになった。

今後、埴町でもバリアフリー化をする際、ぜひ御前崎海洋センターで学んだことや施設の方々のご意見を踏まえて検討していきたい。

◆写真



御前崎市 B&G 海洋センター



トイレ入口のスロープ (バリアフリー化)



トイレ入口の拡充 (バリアフリー化)



2020年度に LED 化



風害・塩害のため鉄骨撤去



お披露目式



集合写真



革工作体験教室



体育館でレクリエーション①



体育館でレクリエーション②



ふるる（市民プール）①



ふるる（市民プール）②